

独自の緊急連絡網構築

保護者や団体、日常で活用

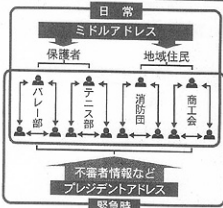
メールがつなぐ地域の輪

黒磯中PTA

那須塩原市黒磯中PTA(佐藤昭治会長)は保護者らを対象に、携帯電話の一斉メール配信システムを活用した独自の緊急連絡網を構築し、本格稼働を始めた。当初、不審者情報など子供の防犯対策が主目的だったのを、日常的に各部活動の保護者間で連絡網に使えるよう利便性を向上させたところ、加入率は九割を超えた。七月からは消防団や商工会など地域団体へも加入を呼び掛けた。保護者会と同様の活用を求めている。普及が進めば地域全体での情報共有や安全対策のモデルケースとして注目されよう。

(佐藤洋)

黒磯中PTA緊急連絡網のイメージ



連絡網は①「パレレ部」など最小単位内で「ギュラーアドレス」②「保護者」や「地域住民」など中規模単位に「ミドルアドレス」③警察から不審者情報などを受け学校が「緊急情報」として全加入者に一斉送信する「フレジデントアドレス」の三階層を二連化した。

登録は、マニュアルに沿って本文を入力し、最小単位ごとに設定されたレギュラーアドレスに送信するだけ。料金はメー

ル通信費のみで、自分のアドレスは他の加入者には知られない。

連絡網構築は六年ほど前、同市内で女児連れ去り事件が発生するなど、保護者間に子供の安全への警戒感が高まったのがきっかけ。コンピュータ関連の仕事を持つ保護者から一斉メールの活用が提案されたが、当初は一部を除いてほとんど理解されなかったという。

佐藤会長は「昔は悪作業者をする人たちの目が犯罪抑止力だった。一斉メールの連絡網は現代版「田んぼの目」といえるシステムで、地域の協力が大切な点は変わりない。今後は継続運営のためNPO法人を立ち上げ、周辺小中学校にも拡大し全国モデルにした」と話している。

同PTAでは、このシステムを考えや成立の経緯を十月、東京都府で開かれる「日本PTA関東ブロック研究会」で報告する予定。

●天
弁天の
井島田うらら